令和７年度　八洲学園大学事業計画書

１．施設の概要

学校名	所有区分	郵便番号	学校（会場）所在地	電話番号	FAX 番号
八洲学園大学	法人所有	220-0021	神奈川県横浜市西区桜木町 7-42	045-313-5454	045-324-6961
八洲学園大学	法人所有	160-0022	東京都新宿区新宿 2-12-12	－	－

２．学生の概要

（１）設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧（令和７年３月１日時点）

設置学部	学科	入学定員（人）	編入学定員（人）	①収容定員（人）	②正科生在籍者数（人）	③科目等履修生数（人）	④特修生数（人）	収容率（%）②÷①×100
生涯学習学部	生涯学習学科	800	400	4,000	1,326	544	1	33.2

（２）令和７年度入学者数・卒業者数・退学者数・除籍者数予測一覧

学生区分	入学者数（人）	編入学者数（人）	卒業者数（学位授与数）（人）	リカレント修了/終了者数（人）	退学者数（人）	除籍者数（人）	増加予測人数（人）
正科生	77	442	140	332（リカレント修了者）	91	105	-149
科目等履修生	363	—	—	245（終了者）	39	47	32
特修生	1	—	—	—	1	0	0

※除籍は平成 29 年度まで実施なし、平成 30 年度～実施。令和６年度第２～３学期に長期休眠学生の除籍を行った（正科生 1,255 人、科目等履修生 174 人、特修生 19 人、計 1,448 人）。令和６年度第４学期以降は原則として学則通りに除籍を実施。

３．教職員関係

（１）令和７年度管理職の概要

職名	氏名	備考（新任・留任等）
学長	水戸部　優子	留任
事務局長	佐藤　明由美	留任
総務課長	佐藤　明由美	留任
教務課長	佐藤　絢	留任
学生支援センター長・入学支援相談センター長	磯西　優佑	留任
キャリアコーディネート室長	佐藤　絢	留任
広報室長	佐藤　絢	留任

（２）令和７年度教職員の概要（令和７年４月１日時点）

職位		合計（人）	平均年齢（歳）
教員	本務	19（学長を含む）	53.5
	兼務（非常勤講師）	42	54.6
職員	本務	5	39.0
	兼務	6	55.8

４．事業の概要

（１）事業の概要

①生涯学習社会の実現

若年層からシニア層まで多様な学生を受入れて、すべての人が高等教育の機会を得られる生涯学習社会の実現に貢献する。令和７年度も主にウェブ媒体による大学広報を行い、また学長のリーダーシップのもと、広く教職員からアイディアを募り、全学的に広報活動に取り組む。

②人間性豊かなｅラーニングの推進

本学は、開学以来の特色である双方向ライブ授業はもちろん、オンデマンド配信、レポート提出及び添削、試験、教職員とのやりとりなど全ての学修を支えているｅラーニングシステムについて、常時改善に努める。令和７年度は管理料の自動課金化を行い、学籍管理の方法を改善する。

③社会貢献・地域貢献等

防災士養成講座については自治体連携を進め、これまで以上に社会貢献・地域貢献となる講座を目指す。引き続きゲートキーパー養成講座やオンラインによる公開講座を開講する。また、空き教室の貸出事業や附属図書館の一般開放も継続し、地域社会に貢献する。

④自己点検・評価

令和６年度大学機関別認証評価にて指摘された「改善を要する事項」や「参考意見」を真摯に受け止めて、改善に取り組む。なお、「改善報告書」の提出が求められるような指摘は無かった。また、令和５年度から開始した内部質保証推進部会やIR推進部会による自己点検・評価活動を継続する。

＜数値目標（前年度比100%）＞

当初予算は公開講座を除き前年度比95%で組んでいるが、目標値は前年度と同等以上とする。

・入学者数：883名（科目等履修生を含む）、うち正科生（1年次入学）77名
・学生生徒等学納金収入：323,305,700円
・公開講座：13,156,850円
・施設設備利用料収入：9,198,500円

（２）主な事業の目的・計画及びその進捗状況（「令和5～15年度八洲学園大学第3期中長期計画」に基づく）

「八洲学園大学第2期中長期計画」が令和4年度をもって完了し、令和5年度から第3期中長期計画を開始した。

①教育研究

年度	事項	概要	進捗状況
5	教育課程の体系的な編成	・生涯学習社会の実現のため、生涯を通して学び続けて	・令和5年度に教務委員会でディプロマ・ポ

		社会の変化がさらに激しくなる時代を生き抜く意欲をもった人材を育成している。 ・知識基盤社会をたくましく、しなやかに生き抜くことのできる生涯学習者・生涯学習支援者を育成するカリキュラムを編成している。 ・ディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標を明確にして、科目ごとの成績評価への厳正な適用を図っている。 ・カリキュラム・ポリシーに基づいた体系的な教育課程の編成を目指して、科目の開設と見直しを進めている。 ・実践的なプレゼンテーション能力、ディスカッション能力を培う演習科目など、課題発見・解決力や豊かな人間性の醸成に資する科目群を開設している。 ・学生や卒業生の視点を育成に反映させるためのアンケートを実施して、科目の新設に役立てている。 ・国家資格取得などの学びを通じて地域の活性化に貢献する人材を育成している。	リシーと科目の関連性に関するアンケートを実施した。 ・令和6年度にアカデミック・スキル関連科目の専任教員2名を採用した。 ・令和6年10月1日付で経済学科目の非常勤講師1名を採用した。 ・令和7年4月1日付で図書館情報学の専任教員1名を採用する。 ・令和6年度よりアセスメント・ポリシーに基づく意識調査(アンケート)を開始した。 ・令和7年度から「レポートの書き方入門Ⅰ・Ⅱ」を2単位に変更し内容を充実する。 ・文学関連科目の整理・体系化を行い、令和7年度から「日本文学史（近代)」「日本文学史（古典)」「文学の批評と理論」を新設する（「日本文学（理論)」は廃止)。
5	教員の能力開発と教授方法の工夫・開発	・e ラーニングシステムの特徴を生かしたアクティブラーニングを具現化する教育方法などの教授法を開発して拡充している。 ・e ラーニングシステムの機能が多様なインターネット環境に応じて最適化されている。 ・FD(Faculty Development)研修を実施して意見交換を行ない、e ラーニングシステムを教育指導に活かすための能力の開発を図っている。 ・教員同士の交流の機会を作って、教育・研究の経験と問	・令和6年3月にテキスト履修科目に関するSD・FD研修会をオンライン開催した。 ・令和6年度から自由に来校受講できる体制に戻した。 ・令和7年3月にSD・FD研修会「合理的配慮の義務化における精神障害・発達障害の学生への対応」を開催する。 ・令和7年3月に「望ましい教員像」「目指す職員像」に関するSD研修を実施する。

		題意識を共有している。 ・グローバル化の進展により多様となったインターネット環境に対応できる学びのスタイルを提供している。 ・国内のどこからでも教員が配信し、学生が受講できるｅラーニングシステムを整備している。	・令和６年度も科目評価アンケートを実施した。 ・令和６年度も FD 研修として授業参観を実施した。
5	研究活動支援	・外部資金の公募情報を収集して提供し、応募を促進している。 ・外部資金の応募にあたって申請書類の作成を支援する体制を整備している。 ・図書館や研究室など教育・研究を行なうための設備の充実を推進している。 ・学術情報リポジトリを構築し、研究成果の活用を促進している。 ・適切な研究時間の確保を図るため、教育・研究以外の教員業務の効率化をさらに推進している。	・令和４年度より外部研究費の公募情報を事務局よりメールで案内している。 ・令和６年度個人研究費・研究旅費を規程内で希望額通りに支給した。 ・令和６年度に研究インテグリティの確保のための体制整備として委員会規程を変更し、細則とガイドラインを策定した。 ・科研費について、令和６年度は４名の専任教員が採択（継続を含む）、令和７年度は専任２名、非常勤１名が応募した。 ・令和６年度に「個人研究費及び研究旅費に関する手引き_第２版」を作成した。

②学生の受け入れ・学生支援

年度	事項	概要	進捗状況
5	学生の受け入れ	・アドミッション・ポリシーに基づいて、多様な学生の受け入れを推進している。 ・特別な配慮を必要として入学を希望する人に対して入学支援相談の体制を整備している。 ・ｅラーニングシステムの機能を生かして、世界中どこか	・「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」を踏まえて、令和６年度から入学志願書の性別欄に説明を追記した。 ・令和６年度に株式会社小学館集英社プロダ

		らでも学べる環境を整備している。 ・入学検討者向けの模擬授業、オープンキャンパス、各種SNS(Social Networking Service)を活用した広報など多様な学生を受け入れるための取組を実施している。	クションと学芸員と社教主資格取得に関する入学金免除の協定を締結した。 ・令和6年度から通信制高校教員のアドバイスを受けて「来校相談」を「キャンパス見学・来校相談」に変更し、参加を促進した。 ・令和6年7月に横浜修悠館高等学校、9月にN高等学校さくらタウンキャンパス、12月に S 高等学校ところざわサクラタウンキャンパスで説明会を実施した。 ・令和6年度から大学案内に入学説明会に関するパンフレットを追加した。 ・令和6年度に通信制高校等(500校)に大学案内を発送した。 ・令和6年度に「社会教育士」のチラシを作成し教育委員会等に配布した。 ・令和 6 年度に再入学審査基準を変更し、5年未満の再入学は全て入学金(登録料)免除とした。 ・修学上の配慮について、令和 6 年度は 12名の申請があった。
5	学修支援体制の整備	・学生の一人ひとりが自分の社会生活と両立して学び続けていけるように学修支援体制を整備している。 ・アカデミック・スキル関連科目の整備を通じて学修の促進を図っている。 ・自然災害などの非常事態を想定して、学修の継続を図	・「令和 5 年度学生支援センターアンケート結果」をまとめ、システム会社への改修依頼等を進めた。 ・令和 6 年度からシラバスの項目を充実した。

		るための学修支援体制の整備を検討している ・SD(Staff Development)研修・FD 研修などの実施を通じて、教職員が教育の理念や学内外の問題・課題を共有し、一体となって学修支援に取り組んでいる。 ・学生同士の交流を促し、豊かな人間性の醸成に資する仕組みを整備している。 ・e ラーニングシステムの機能を生かして、障害学生支援を実施している。 ・中途退学などの防止につながる取組を行っている。 ・学生のニーズに沿った多様な方法により授業を開講している。	・令和 6 年 4 月に「新採用の方を迎える SD 研修会」を開催した。 ・令和 6 年 7 月に SOBA マナベルに匿名の意見・要望フォームを設置した。 ・令和 6 年度課外活動として以下を実施した：小関先生交流会（9 月、3 月）、野口先生交流会（9 月、3 月）、小関先生引率の国立武蔵野学院参観（7 月）、小関先生引率の松本少年刑務所施設参観（9 月）。 ・「修学上の配慮申請者への対応について（2023 秋）」アンケートの結果をまとめ、教職員に周知した。 ・令和 6 年度に国の教育ローン（日本政策金融公庫）の案内を学生支援センターページに追加した。 ・令和 7 年 1 月に『レポートの書き方ハンドブック』を改定した。 ・令和 7 年 3 月に「望ましい教員像」「目指す職員像」に関する SD 研修を実施する。
5	キャリア形成と就職支援	・社会の変化に応じて学生のキャリア形成や就職・転職活動を支援する体制の充実を図っている。 ・学生のキャリア形成や就職・転職活動に役立つような科目群を整備している。 ・卒業生を対象とした勉強会や交流会の開催など、卒業や資格取得後をフォローする仕組みを整備している。	・令和 6 年度就活セミナーとして、キャリアコーディネート室説明会、就職活動の進め方（新卒）、就職活動の進め方（司書）、就活対策（司書・50 歳～）、就活対策（司書・公務員試験）、履歴書・職務経歴書の作成、面接対策、自己分析、メンタルヘルスを配信した。

			・インターンシップの単位認定あるいは正規科目開講に向けた学生アンケート実施した。 ・キャリア教育科目を担当する専任教員1名の休職を受けて今後のキャリア教育科目について整理・体系化を検討している。

③大学運営

年度	事項	概要	進捗状況
5	運営体制の整備	・大学を取り巻く環境変化に応じて組織を柔軟に改編しながら、学長をはじめとする委員会、教授会等の役割と責任を明確にし、ガバナンスの強化を推進している。 ・教職員の提案などを各委員会、教授会等がくみ上げ、教職員の意思疎通と連携を適切に行い運営をしている。 ・中長期的な管理運営体制の視点に基づき有用な人材を計画的に確保するとともに、SDをはじめとする研修等により管理運営にかかわる教職員の人材育成をしている。	・令和5年度に開始した学長、総務委員長、教務委員長によるミーティングについて、令和6年3月に「学長ミーティング規程」を施行した。 ・令和3年度よりSD研修として専任職員の勤務時間内の研修参加を推奨し、令和5年度は全5名が計13回受講した。 ・令和6年10月1日付で経済学科目の非常勤講師1名を採用した。 ・令和7年4月1日付で図書館情報学の専任教員を採用する。 ・令和7年4月1日付で博物館学（博物館資料保存論）、社会教育学（学校、家庭、地域の連携協力論）の非常勤講師を採用する。
5	内部質保証の推進	・内部質保証の評価の結果を大学運営の向上のために反映し、PDCAサイクルを機能させている。	・令和6年度に「八洲学園大学とは」ページをリニューアルし「IR情報」「内部質保証」

		・IR（Institutional Research）によるエビデンスに基づく自己点検・評価を定期的に行っている。 ・自己点検・評価の結果を学内で共有し、情報を公開している。	ページを作成した。 ・「令和５年度自己点検評価アンケート結果」をまとめ、IR 情報ページに公開した。 ・「令和５（2023）年度八洲学園大学 IR 推進部会年次活動報告書」を学長に提出した。 ・令和６年４月に令和５年度第２回内部質保証推進部会を開催した。 ・令和６年６月に「令和６年度自己点検評価書」及びエビデンス集（データ編）を公開した。 ・令和６年６月に第１回 IR 推進部会を開催した。 ・令和６年７月に令和６年度第１回内部質保証推進部会を開催し、令和６年度改善計画シートを作成した。 ・令和６年８月に第２回 IR 推進部会を開催した。 ・自己点検の結果として在籍学生数の管理が杜撰であったことが分かり、休学等の学生異動の申請時期の厳格化と学則に基づく除籍の実施を決定し、令和６年度第２・３学期に長期休眠学生の除籍を行った。 ・令和６年度より、在籍学生数の厳格な管理のため学生数定期報告を開始した。 ・令和７年１月に第３回 IR 推進部会を開催

			した。 ・令和６年度に日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審した。
5	組織倫理、人権、安全管理の推進	・研究倫理の遵守を推進している。 ・人権に配慮した職場環境を促進している。 ・発災時の事業継続体制の構築などによる危機管理対策をしている。 ・ｅ ラーニングシステムの安定的な稼働と情報セキュリティの強化を図っている。	・令和６年度に消費期限が近い災害備蓄品の入替えを完了した。 ・令和６年度に各教室に「急病人が出たときの緊急対応フロー」を設置した。 ・令和６年度に教員と職員の就業規程を事実婚に対応したものに変更した。 ・令和６年度に専任教員及び非常勤講師の就業規程等に関する自己研修を実施した。 ・令和６年度に情報セキュリティ対策ガイドラインを作成し、教員情報ページや学生支援センターページに掲載した。 ・令和６年９月に専任職員で事務局危機対応マニュアルの読み合わせをした。 ・令和６年９月に消防訓練を実施した。 ・令和７年３月に消防訓練（2 回目）を実施する。

④社会連携・社会貢献

年度	事項	概要	進捗状況
5	生涯学習社会の実現	・地方自治体の生涯学習プログラムとの連携を進めている。 ・企業等と連携・協働する体制を強化し、職業人向けリカ	・令和６年度も「開放授業」を実施した。 ・令和 6 年度に新規公開講座「「自分史」作成入門講座」、「韓国の図書館の最新事情」を

		レント教育の充実を図っている。 ・生涯学習機関として社会の多様なニーズに応える公開講座を展開している。	開講した。 ・株式会社小学館集英社プロダクションと学芸員と社教主資格取得に関する入学金免除の協定を締結した。 ・令和 6 年度「防災士養成講座」を 8 月、1 月、2 月に開講した。 ・令和 6 年度「こころのサポーター″″ゲートキーパー養成講座」を 8 月、2 月に開講した。 ・第 26 回図書館総合展にミニブースを出展し、スピーカーズコーナーに学生や終了生と教員が登壇した。 ・令和 7 年度「防災士養成講座」開講に向けて自治体連携を検討している。
5	社会貢献活動の推進	・教育・研究の成果や施設・設備を活用して広く社会や地域に貢献することを推進している。 ・学生や教職員、卒業生等が行っている教育・研究の成果を社会や地域に還元する活動、またその他のボランティア活動等についての情報交換・発信を大学として推進している。 ・e ラーニングシステムの機能を活かして公開講座の充実を図っている。	・リカレント研究センターについて、令和 6 年度は継続 6 人、新規採用 2 人の計 8 人の研究員が活動した。 ・令和 6 年 10 月に衆議院選挙投票所として附属図書館閲覧室を提供した。

（３）施設・設備の整備計画

引き続き横浜ビルの老朽化（築 36 年）に伴う整備を行う。令和 6 年度は連結送水管耐圧試験（3 年に 1 度）、空調機修繕工事（6 階・8 階）、システム天井点検口移設工事（8 階共用部・8g・9e）、3 階職員室空調吹出口増設工事、1 階男子トイレ手洗い器補修工事、キュービクル内部

部品更新工事、東側壁面付着物撤去工事、及び電話設備更新を行った。令和７年度は、保守管理会社からは重要度の高い修繕として受変電設備更新工事の提案を受けているが、収支状況を見つつ優先度の高いものから実施していく。また、学内 LAN 配線~~や電話設備~~も耐久年数を大幅に超えており、いつ不具合が起きてもおかしくないことから、入学者数や学納金収入状況を見ながら、令和８年度以降の改修を計画したい。

（４）授業料変更等

令和７年度は変更なし。なお、令和８年度からシニア割引の対象年齢を 50 歳以上から 55 歳以上に引き上げ、シニアコース 109,000 円のみに変更する。

（５）卒業者数、就業者数、学位授与数の見込み　※卒業者数、学位授与数は２（２）参照。

学生区分	就業者数（在学時からの就業者も含む）（人）
正科生	1,301 人
科目等履修生	385 人

（６）学生の就職、進学の状況

平成 24 年度後半より「キャリアコーディネート室」を設置し、就転職を希望する在学生・卒業生へ就転職セミナーの実施や、メールでの定期的な就職情報配信を行っている。令和６年度はキャリアコーディネート室の支援により 54 名（科目等履修生を含む）の就転職が決定した（3 月 1 日時点）。大半が社会人学生であることから、既に就職している者も多く必ずしも卒業と同時に就転職を希望するとは限らないが、「キャリアコーディネート室」の活動が広報に結びつき、入学促進にもつながっている。

（７）教職員の採用・退職計画

職位			令和６年度退職（人）	令和７年度採用等（人）
教員	本務	特任教授	0	1
		教授	0	1
		准教授	0	0
		講師	0	0

	兼務（非常勤講師）	3	2
職員	本務	0	1（未定）
	兼務	1	1（未定）

（８）今後の課題

引き続き、定員充足率 80%の達成が課題である。令和 6 年度 5 月 1 日時点の定員充足率は約 63.0%（科目等履修生を含めると約 79.8%）と、昨年度より約 3.0%伸びたが、長期休眠学生を多く含むことが分かり、令和 6 年度第 2・3 学期に大規模な除籍を行った。その結果、令和 7 年 3 月 1 日時点の定員充足率は約 33.2%（科目等履修生を含めると約 46.8%）となっている（平成 29 年度時点と同水準)。昨年度の事業計画書で課題としていた専任教員数が大学設置基準に定める最低人数ぎりぎりの状況である点については、令和 7 年 4 月 1 日付で 1 人を採用して改善に努めているが、基幹教員制度の開始も念頭に、引き続き教員の充実は重要課題といえる。令和 6 年度の学費の一部（入学金、授業料、管理料）値上げは、入学者数や履修者数にそれほどの影響は与えなかったとみるが、令和 8 年度に行うシニア割引の対象年齢引き上げは、約 20%を占める 50 歳台の学生数を一時的に減少させる懸念があり、それを踏まえた広報戦略が必要である。

また、コロナの影響によるオンライン授業の普及によって、e ラーニングスタイルの大学の競争はさらに激しくなると考えられることからも、より一層 e ラーニングシステム「SOBA マナベル」の改良を進める必要がある。

５．財務の概要

令和 6 年度は大きな収益増となり、平成 29 年度の認証評価で指摘を受けた財務状況はさらに改善した。引き続き収入と支出のバランスを注意深くチェックしながらコスト削減と各分野の収入増を同時に推進するとともに、教職員の採用、障害学生支援の体制整備、e ラーニングシステムの開発、内部質保証の推進など、収益をしっかりと教育研究経費に充てていく。また、築後 36 年になる八洲学園大学本館を維持するため、大規模修繕の計画およびその原資となる修繕積立金の計上も今後の課題である。